



## 校区の皆さんに支えられて

毎週水曜日は、1年生だけの下校となるため、校区見守り隊の方々が、1年生に付き添って一緒に歩いてくださっています。先日若松方面の子どもたちと一緒に、私も歩いてみました。見守り隊の方々といろいろなお話をしながら、楽しそうに帰る子どもたちの姿を見て、うれしい気持ちとありがたい気持ちでいっぱいになりました。しばらく歩いて行くと、玄関先に立って出迎えてくださる年配の女性の方がいます。ハイタッチをしながら、笑顔で「お帰り。」と声掛けしてくれるその方は、にこにこしながら「私は子どもたちに魔女って呼ばれてるの。私がそう言ってるの。」と言いながら、子どもたちの話を聞いてくれています。これが毎日の光景なんだろうと思わず笑顔になりました。



また、ボランティアで、毎朝、交差点に立って、登校を見守ってくださっている方もいます。子どもたちの安全のために、何十年もの間、交差点に立ち続けてくださっています。本当に頭が下がる思いです。

そして、先日は、校区の老人会の方に、400枚もの雑巾をいただきました。老人会の方々が1枚1枚縫ってくださったものです。雑巾だけでなく、あたたかい気持ちや思いもいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。掃除のときに大切に使用したいと思います。

幸校区は素晴らしいところです。みんなで子どもたちを育てていこうという風土があります。「学校と家庭と地域が同じ方向を向いて、共に協力しながら笑顔で子どもを育てていく」これは、子どもにとって最高の教育環境だと思います。「幸せな学校」幸小学校の子どもたち、を、みんなの力で心豊かに育てていけたらと思っています。

## 学びが広がる新聞ボランティア

**有意義な夏休みを！！**

6年生の有志が2, 3人ずつ新聞ボランティアとして、新聞を整理した後、校長室を訪れます。気になる記事を選んで、その内容とそのことについてどう思い、考えたかを話していきます。6年生ともなれば、立派な考えをもっている子もおり、感心します。何より、自分の周りのこと、社会のことに目を向け、自分事として考えることは、大切なことだと思います。これは、新聞に限らず、さまざまな場面で取り組みます。

子どもたちの周りには、学びの場が広がっています。子どもたちが興味や関心をもって、「あれ?」「なんで?」と思って調べたり、考えたりできるとよいと思います。低学年のうちから、いえ、もっと小さいうちから、こういう経験を積んでいくと、勉強が好きな子、自発的に学んでいける子に育っていきます。

もうすぐ、夏休み。子どもたちにとってこの夏休みは、おもいっきり遊んだり、いつもできないような体験をしたり、じっくり考えたりできる貴重な「時」です。有意義な夏休みを送ることができるといいなと思っています。